二条裸麦有望系統「キラリモチ」について

１ 来歴

（１）育成地　農研機構　近畿中国四国農業研究センター

（２）交配組合わせ　「四国裸 103 号」（後の「ユメサキボシ」）／「大系 HL107」
（後の「とちのいぶき」）／「四国裸 97 号」

２ 特徴

（１）精麦用として利用が期待されるもち性の二条裸大麦である。

（２）「イチバンボシ」に比べ出穂期は１日程度早く、成熟期は１日程度遅い。

（３）「イチバンボシ」に比べ、稈長は同程度、穂長は長く、穂数は多い。

（４）「イチバンボシ」に比べ、千粒重は重く、収量は低い。

（５）水溶性食物繊維「βグルカン」を多く含む。

（６）ポリフェノールの一種である「プロアントシアニジン」を含まず、炊飯麦が褐変しにくい。

（７）平成 29 年度、茨城県が認定品種採用（平成 30 年産の作付面積 125ha）。

表　奨励品種決定調査結果（平成20、30年播の平均）

品種名	出穂期（月日）	成熟期（月日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/m^2）	千粒重（g）	整粒重（kg/a）
キラリモチ	4/4	5/21	75	6.2	716	36.0	45.0
イチバンボシ	4/5	5/20	77	4.3	581	31.0	54.3

注）整粒重は2.0mm篩選による

「キラリモチ」　「イチバンボシ」

18時間保温後の炊飯麦

（農研機構　HP より）

３ 令和元年播(令和２年産)の取り組み

奨励品種決定現地調査（２年目）を県内５カ所で実施し、現地適応性を検討中。また、実需者が実際使用している機械で精麦の加工適性試験を行うための麦を現地で栽培中（２ｈａ）である。

４ その他

近年、健康志向の高まり等から、高βグルカンもち性大麦の需要が非常に多く、県内では「もっちりぼし」が作付されている。しかし、「もっちりぼし」は生産用種子の入手が困難な状況であり、新たな品種の導入が求められている。「キラリモチ」については、平成 20 年度に試験場内で調査を実施、「イチバンボシ」より低収なため調査を終了した。しかし、「キラリモチ」に対する実需者の評価が高いことや、茨城県で採用され作付拡大がはかられていることから、平成 30 年度より試験場内において栽培性を再確認するとともに、現地適応性の検討を実施している。